

平成27年度 授業改善結果の検証について

学校名 中央区立月島第二小学校

校長名 鈴木 政 博

授業改善の 基本方針	取組範囲 (○) 全教科・(○) 学習力サポートテストの教科・(○) 重点教科 ○「話す・聞く」態度や「書く」等、言葉を使いこなす力を高める。また、「読むこと」についても多くの文章に触れさせ、読み取る力を高める指導法の工夫をする。 ○問題解決的な学習・指導を充実させ、「数学的な考え方」についての力を伸ばす。 ○思考力を向上させるために児童の興味を引くような教材の工夫をする。	
授業改善の 主な取組	重点的に取り組んだ方策・特色ある取組 ○国語科では年間通して「書く」「話す・聞く」の機会を増やす等、表現力を高める指導の工夫を行う。また読書や視写などの機会を増やすなど、「読むこと」についても文章を深く読み取る力をつける指導の工夫をする。 ○算数科では、算数少人数担当との連携を深め、計画的に指導を進める。また、計画→予想→実行→練り上げを行い、すべての児童が自力で問題解決できるようにしていく。 ○児童の興味・関心を喚起するような教材選択や学習過程の工夫をする。	成果または課題 ○「話す・聞く」については話形の提示により文の読解能力の向上や会話の中での語彙の増加が見られた。また日記や感想など「書く」機会を増やしたことで、苦手意識が減少し、長文が書けるようになったり、計画メモの利用で文章構成ができるようになったりしてきた。 ○学び合いの場を設けることで、自力で問題を解決していこうとする姿が多く見られようになってきた。しかし、基礎学力の差が大きいので続けて個別指導で底上げしていく必要がある。 ○パソコンを利用したカラーでの大型映像資料提示によって興味を高め、内容を理解させることができた。
個に応じた 指導の工夫	重点的に取り組んだ指導の工夫 ○児童の実態にあった指導計画を作成し、計画的な指導と繰り返し指導を行う。 ○算数では単元ごとに習熟度別に少人数指導を行い、少人数担当と事前打ち合わせを十分に行ったり、学習指導補助員と連携したりして個に応じた対応が効果的に行われるようにする。 ○「家庭学習キャンペーン」を各学期1回実施し、家庭学習の習慣を身に付けさせ、「放課後さんすう塾」の実施によりつまづいている部分への個別指導を行う。	成果または課題 ○算数の実態調査やベーシックテストの分析により、一人ひとりの実態に即した指導で基礎学力の向上を図ることができた。 ○学年によっては、5つの習熟度別少人数グループで指導でき、能力に合った課題設定や学習過程で達成感を味わいながら学習できた。 ○「放課後さんすう塾」の時間の確保や個別の課題についての指導者同士の情報共有など、効果的な運営方法について再検討する必要がある。

授業改善の 検証方法	検証として取り組んだ項目に○を付けてください。 (○) 管理職による授業観察の検証 (○) 教員相互での授業参観による検証 (○) 校内研究での検証（研究授業等含む） (○) 学習力サポートテスト、定期テスト等の結果による検証 (○) 作品や提出物の評価による検証 (○) 学校評価における教員の自己評価の検証 (○) 保護者及び児童・生徒アンケートによる検証 () 外部評価委員会における検証 () その他< >
授業改善の 主な結果	当てはまる項目に○を付けてください。 <児童・生徒> (○) 学習意欲がより高まった。 (○) 基礎的・基本的な学習内容がより定着した。 (○) 知識・技能の活用能力や問題解決能力が高まった。 (○) 学力（学習の到達度）の向上が図られた。 <教員> (○) 指導の工夫や教材開発が図られるようになった。 (○) 授業の指導技術が向上した。 (○) 個に応じた指導がより一層図られるようになった。 () その他< >